

200257

絵本学会 NEWS No.15

発行：絵本学会

発行日：2002年5月7日

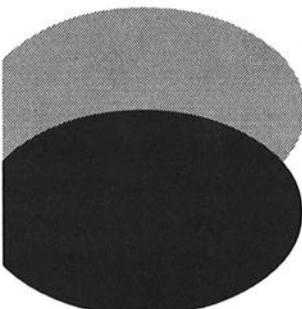
編集：絵本学会事務局・広報委員会

事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

武蔵野美術大学芸術文化学科今井研究室内

FAX：042-342-5191

<http://ehongaku.musabi.ac.jp>.



研究対象としての「絵本」

伝言板

インフォメーション・絵本関係展覧会・イベント

事務局からのお知らせ

絵本学会

研究対象としての「絵本」

絵本学会会長 三宅興子

「絵本は、遊びの世界、楽しみの世界なのである。学問の対象にはならないし、しない方がいいのである。」(「ひろば」60号)と、至光社の武市八十雄さんが、書かれたのは、1973年、絵本の評論誌が月刊で相次いで刊行されたころです。新しい絵本の創作出版に情熱のありつけをかたむけておられた武市さんにとって、70年代の「評論」や「研究」のありようは、むしろ、無用、あるいは、害のあるものと映っていたのでしょうか。そのころ、イギリス児童文学という「研究対象」に、絵本も入れようとしていた私にとって、以後、そんな研究なら「しない方がいい」と武市さんならいわれるのかどうか、と自分に問いかける自戒の言葉となっていました。

昨年、「日本絵本原画展イン・イングランド」に出展する、谷内こうた『にちようび』の原画をおかりするために、至光社を訪れ、久しぶりに武市さんとお会いする機会を持つことができ、そのことが契機となって、また、日本の絵本の成し遂げたことを紹介する必要もあって、自然と、絵本の「研究」がどれほど進んだのか、自分は何をやってきたのかを、振り返ることになりました。1994年に『イギリス絵本論』として、それまでに自分の残してきた論稿を一冊の本にして以来、多くの取り上げたい課題に気付きながらも、なかなか、思いを集中できないでいることに苛立っている自分を鎮めたいという願いもありました。振り返りの作業は、勤務校で、大学院の演習ゼミを、二つにわけ、一つを「絵本ゼミ」として一昨年から開いているのですが、そこで、何故、絵本を研究したいのか、もう一度、問い合わせ直すことを、学生とともに、考えることからはじめました。また、これは、大橋眞由美さんの熱意にのせていただくことになったのですが、共同研究したい方を公募して、梅花女子大学の図書館の協力を得、「日本絵本史研究会」を発足させ、日本の絵本史のはじまりを問うことも、はじめました。

演習ゼミでは、これまでの研究をとにかく読んでみることにしました。まず、絵本の理論書です。英語のものを主に読みましたが、説得

力のある理論は、これからかな、という印象が残りました。絵本研究の方法については、自分たちで模索していくほかないということも、あらためて感じました。

「日本絵本史研究会」では、明治時代の出版物、特に、雑誌をみました。しかし、混沌としている資料に道をつけるのには、まだまだ、時間がかかり、調査をしないといけない課題も多々でてきてています。明治時代の読者を想像しながら、はじめてみる雑誌に向かうのは、「初心」にかかるドキドキ感を伴って、楽しい作業です。これからも、できるだけ多く、資料を読む、見るということが続いていくでしょう。研究三十年というと、随分長い時間に思われるのですが、とても、短く感じられます。こうして、「いま」、また、次の船出をしてみると、絵本の世界は広く、まだ見ぬもの多く、覚束ない地図をつくりながら、あちらに行きたい、こちらも気になると、あと、どれくらい自分に時間があるのかを、気にしながら、同行してくださるかたがたを頼りの、旅の身となります。振り返るのは、少し、苦手、むしろ、先へ、先へと、いきたい気持ちがかっています。

最近、村瀬学さんの、『なぜ「丘」をうたう歌謡曲がたくさんつくられてきたのか—戦後歌謡と社会—』(春秋社)を読んだのですが、「丘」が墳墓であること、一つの世界ともう一つの世界との境であることを知って「丘」の出てくる歌謡曲をみると、「なぜ」がよくわかり、とても刺激的な論が展開されていました。今まで、だれも書かなかった戦後史がくっきりと浮かび上がってくるのです。おもしろい。おそらく、研究の「たね」あるいは、「め」は、村瀬さんのような着目に、それこそ、「学ぶ」ことで、みつかるかもしれません。最近、「ぶた」の絵本が多いのは、なぜ?

最近、大人の絵本が絵本売り場によく並べられているのは、なぜ? 絵本にも「丘」が多いのでは?

絵本の研究って、いいね、おもしろい、と武市さんにいってもらえるような、研究を模索していきたいと考えています。

伝言板

関東地区グループ研究会のお知らせ

以下のように、関東地区でグループの研究会を始めます。
ご指導、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

1. 目的

- (1) 絵本研究の推進
 - a. 研究内容の発表（研究の成果を学会紀要等で発表）

2. 内容（第1期 3年間 2002-2005年）

- (1) 昔話絵本の研究
 - a. 昔話の研究——昔話そのものについて学ぶ。
 - b. 昔話の絵本化——昔話の視覚化について
 - c. イラストレーション研究——物語るイラストレーションの研究
- (2). その他
 - a. 講演会 講師を招いての学習会
(できれば(1)と関連して行いたい)
 - b. 学習会 ——テクストを決め発表形式での学習会

3. 日時（予定）

- ・2か月に1回程度
- ・月曜日 午後 18:30-20:00
- ・土曜日 午前 10:00-11:30

（詳細はお問合せ下さい）

4. 会場（予定）

〒245-0002 横浜市泉区緑園4-5-3

Tel 045-812-8390

フェリス女学院大学 藤本朝巳研究室

（会場は、現在検討しています）

5. 参加資格

- ・会員であること
- ・絵本などを原文（英語など）で読むことがあるので、事前準備が必要です。

※会のため、毎回200円程度の会費を集めます。

－コピー代、資料代、通信費、お茶代、名簿作成代等に当てる。

6. その他

※学会紀要等での発表を目標にし、研究成果を公表する。

できれば学会ニュース等で、中間報告をしたい。

（発案：研究委員 石井光恵、藤本朝巳）

詳細は以下にお問合せ下さい。

〒253-0031 茅ヶ崎市富士見町11-22-103

Tel(Fax) 0467-87-6905

藤本 朝巳

軽井沢絵本の森美術館

—2002年春の企画展のご案内—

絵本の中ではさまざまな「旅」が繰り広げられます。新たな冒険を求めて、身を隠すために、時には大切な約束を果たすために、物語の主人公たちは森や海、魔法の世界へと旅立ちます。

このたびの企画展では、このような絵本のストーリーのなかで行われる「旅」、「空間移動」に着目し、いくつかに設定したパターンごとに、絵本原画と絵本を展示します。これまでと違った方向からのストーリーの見方をご提案できましたら幸いです。

パターン構成

- 1) 自己実現型—よりよい状況を求めて進んで出かける
「ブレーメンの音楽隊」、「人魚ひめ」など
 - 2) 目的達成型—約束・救助を果たすために
「キューピッドとブシケー」、「6羽の白鳥」、など
 - 3) 逃避行型—危険からの逃避・追い出されてやむをえず
「白雪ひめ」、「ラブンツエル」、「ヘンゼルとグレーテル」など
 - 4) 不可抗力型—迷子になるなど、目的なくでかける
「しろくまくん どこへ」など
- 番外編) ワープ型—ファンタジーへの旅
「かいじゅうたちのいるところ」、「ピーターパン」など
作品点数 約100点

*第1展示館では、「欧米絵本のあゆみ & 絵本の中ではこんなことができる！」展を開催します。

会期：2002年3月1日（金）～6月24日（月）

開館時間：9:30～17:00（最終入館は閉館時間の10分前）

休館日：火曜日（ただし4月30日（火）は開館）

入館料：大人800円 中高生500円 小学生400円

*4月24日（水）、エルツおもちゃ博物館リニューアルオープン以降、2館共通セット券あり

（大人1000円 中高生700円 小学生500円）

*エルツおもちゃ博物館は4月23日（火）まで冬期休館いたします。

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

TEL 0267-48-3340 FAX 0267-48-2006

URL <http://www.museen.org/ehon>

e-mail ehon@museen.org

ムーゼの森

2002年 夏の企画展 のご案内

◇軽井沢絵本の森美術館

<夏の企画展>

◆「うたの歌とうた唄の絵本展—目をこらせば音楽がきこえる—」…第2展示館

うた（マザーグースなどの「わらべ唄」や歌曲）に絵がつけられたもの、楽器や音が描かれたもの、

絵本の中には音楽が満ちあふれています。音楽と絵との素晴らしい出会いに、どうぞ立ち会ってください。
さい。[主な出品作家：レギリー・ブルック、トニー・デ・パオロ など]

◆「きば木葉い井悦子展—愛犬クロとの日々」…第1展示館
木葉井悦子は、ともに暮らしていた犬のクロを絵本の中に繰り返し登場させています。クロの描かれた作品を通して、彼らの日々を見つめます。

<作品点数> 約160点

(第2展示館=約100点 第1展示館=約60点)

会期：2002年6月28日（金）～10月14日（月）

開館時間：6・10月→ 9:30～17:00

7～9月→ 9:30～17:30（最終入館は閉館時間の10分前）

休館日：10月1日（火）、10月8日（火）…7～9月は無休
入館料

	大人	中高生	小学生
絵本の森	800円	500円	400円
エルツ	600円	400円	300円
2館共通割引セット券	1000円	700円	500円

・単館入館の場合、15名以上団体割引 10%OFF (セット券の団体割引はありません)

・障害者割引：ご本人に限り、単館入館料の50%OFF
総合インフォメーション（軽井沢絵本の森美術館内）

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

tel. 0267-48-3340 fax 0267-48-2006

URL <http://www.museen.org>

E-mail 絵本の森／ehon@museen.org

エルツ／erz@museen.org

エルツおもちゃ博物館（軽井沢）

2002年 春・夏展のご案内

エルツ地方のおもちゃ～木のつくりだす美とエネルギー～

2002年4月24日（水）～10月14日（月）

A展示室 いろいろなおもちゃ

くるみわたり人形、パイプ人形、クリスマスピラミッドなど、エルツ地方の典型的な木のおも

ちゃ7種類をわかりやすく紹介します。またここでは、1900年頃の職人の仕事場を再現した家庭工房も御覧いただけます。

B展示室 おもちゃの町ザイフェンの歴史

かつては鉱山の町であったザイフェンが、おもちゃ作りの町へと移行した経緯を追います。様々な仕事をする坑夫の姿が忠実に写しとられた人形、「ノアの方舟」や「マッチ箱」、「網」などの包装物…おもちゃの歴史を語る上で欠かすことのできない品々を一挙公開します。

C展示室 木一人文化

幅広い角度から、おもちゃや木の魅力に迫ります。

ザイフェンのマイスターたち／ドイツのおもちゃ／ドイツのクリスマ

ス風景／日本の木地玩具／フレーベルの教育のおもちゃ
＊遊び場…お子様が靴を脱いで楽しく遊べるスペース。
＊ビデオコーナー…ザイフンの町や、おもちゃ作りの様子を放映します。

作品点数：約 1000 点

会期 2002 年 4 月 24 日 (水) ~ 10 月 14 日 (月)
開館時間 4 ~ 6 月・10 月 → 9:30 ~ 17:00
7 ~ 9 月 → 9:30 ~ 17:30 (最終入館 10 分前)
休館日 火曜日
(ただし 4 月 30 日 (火) は開館、7 ~ 9 月は無休)
入館料 大人 600 円 中高生 400 円 小学生 300 円
(絵本の森美術館とのセット券：大人 1000 円 中高生 700 円 小学生 500 円)
エルツおもちゃ博物館（軽井沢）
〒 389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢 193-3
総合インフォメーション（軽井沢絵本の森美術館内）
〒 389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢 182-1
tel. 0267-48-3340 fax 0267-48-2006
URL <http://www.museen.org> E-Mail erz@museen.org

世田谷文学館

平成 14 年度企画展 「昔話と昔話絵本の世界展」

平成 14 年 7 月 6 日(土)~9 月 8 日(日)(実開催日数 56 日間)

午前 10 時～午後 6 時 (入場は 5 時 30 分まで)

毎週月曜日休館

【主催】世田谷文学館

【協力】岩波書店、こぐま社、鈴木出版、福音館書店、ぼるぶ出版、ポプラ社、安曇野ちひろ美術館、祈りの丘美術館、軽井沢絵本の森美術館、脇田和美術館

【後援】絵本学会（予定）、世田谷区教育委員会（予定）

【会場】世田谷文学館

〒 157-0062 世田谷区南烏山 1-10-10 (京王線「芦花公園」駅南口徒歩 5 分)

TEL(03)5374-9111(代表) FAX(03)5374-9120

URL <http://www.setabun.or.jp>

【趣旨】 人類はどの民族も子どもたちに昔話を口伝えしてきました。私たち日本人も次の世代の子どもたちへ伝えたいメッセージを、昔話を通して何百年にもわたって語り継いできました。それは、生きていくための知恵や勇気、親切や正直といった人生観だけでなく、自然観、世界観といった普遍的な要素を含み、子どもの感受性や想像力の源泉となるものです。文章だけでは確かなイメージを結べない幼い子どもたちも、昔話にイラスト(絵)がつく昔話絵本によって物語をイメージしやすくなります。幼い頃に昔話や昔話絵本を通して物語の面白さやすぐれた絵の魅力を実感することは、その後の読書や文学の扉を開くきっかけになります。かつて日本の子どもたちは、両親や身近な大人から昔話を聞いて育ちました。しかし、少子化、核家族化、都市化の急激な進行によって、子どもたちが昔話を聞いて育つ環境が大きく変化してきています。身近な家族の声と言葉で、子どもたちに昔話や昔話絵本を読み、語ることの大切さが、今あらためてさけばれています。

本展は、「昔話の世界」「昔話絵本の世界」の二部構成の展示と、ト

ク＆サイン会、絵本美術館紀行、おはなし会、ギャラリートークなどの多彩なイベントを通して豊かで魅力的な昔話と昔話絵本の世界を紹介します。「昔話の世界」のコーナーでは柳田國男の紹介を中心に、「昔話絵本の世界」のコーナーでは昔話絵本の傑作約 10 点、原画 150 点の展示を予定しています。

【観覧料】一般／300 円(240 円) 高校・大学生／200 円(160 円)
小学・中学生／100 円(80 円) 65 歳以上／150 円(120 円)

* () 内は 20 名以上の団体料金、障害者割引あり

展示構成

【昔話の世界】

昔話の世界を柳田國男昔話関連資料、児童文学者大川悦生資料を通して紹介するほか、日本の代表的な昔話のパネル展示を行います。

【昔話絵本の世界】

出品予定作品(原画)

作品名 作者名 出版社

「かにむかし」木下順二／文・清水崑／絵 岩波書店

「かちかちやま」小澤俊夫／再話・赤羽未吉／画 福音館書店

「ももたろう」松居直／文・赤羽未吉／画 福音館書店

「おだんごぱん」ロシア民話 瀬田貞二／訳・脇田和／絵 福音館書店

「うりこひめとあまんじゃく」木下順二／文・初山滋／絵 岩波書店

「へっこきあねさがよめにきて」大川悦生／文・太田大八／絵 ポプラ社

「きつねにようぼう」長谷川摂子／再話・片山健／絵 こぐま社

「あかずきん」樋口淳／文・片山健／絵 ぼるぶ出版

「かさじぞう」織田道代／文・木葉井悦子／絵 鈴木出版

「さんまいのおふだ」水沢謙一／再話・梶山俊夫／絵 福音館書店

* 出品作品は変更することがあります。

関連イベント

・トーク & サイン会：絵本作家(未定)

藤本朝巳(フェリス女学院大学教授)

* 日程等未定

・絵本美術館をめぐるバスツアー：「安曇野絵本紀行」

8 月 7 日(水) 参加費 9000 円

安曇野ちひろ美術館、絵本美術館森のおうちほか

・絵本フォーラム 102：「昔話絵本を考える」(仮)

絵本学会との共催

8 月 24 日(土) 午前 10 時～午後 4 時

* このほかに会期中、昔話のおはなし会、ワークショップ、ギャラリートークを予定しています。いずれも事前申込制です。

【問い合わせ】世田谷文学館 学芸係

展覧会担当：生田美秋、斎藤直子

広報担当：竹田由美

TEL(03)5374-9112 FAX(03)5374-9120

事務局からのお知らせ

●第5回絵本学会大会（2002年度）開催のご案内

別紙のとおり第5回絵本学会大会のプログラムが確定いたしました。なお、今年度より大会参加費および交流会費を事前に振り込んでいただくことになりましたので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。振込手数料は、絵本学会が負担いたします。

●絵本学会研究紀要「絵本学」第5号論文公募のお知らせ

絵本学会研究紀要「絵本学」第5号の論文を公募します。下記の要領でふるってご投稿ください。

『絵本学』投稿の要領

- 1) 投稿資格：絵本学会会員および準会員
- 2) 内容：絵本に関する研究論文、報告、論説、研究ノートで、未発表のもの。
- 3) 掲載の採択：査読に基づき、編集委員会が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員会の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員会は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。
- 4) 刊行までの日程：(1) 投稿締め切りは9月30日（必着）とする。(2) 掲載の採否は12月15日までに投稿者に通知する。(3) 刊行は当年度内とする。
- 5) 原稿送り先：絵本学会事務局（郵送とする。Faxによる送付は不可）

『絵本学』執筆の要領

- 1) 執筆は、別に定められた「執筆要領」に準拠すること。「執筆要領」は、個別に事務局に請求する。
- 2) 使用言語：日本語とする。
- 3) 原稿の分量：原則として一篇につき、研究論文は8000字から16000字まで、報告・論説・研究ノートは8000字以内。
- 4) 原稿の体裁：必ず完成原稿であること。原則としてワープロによる横書きとする。表紙に原稿の種類（研究論文、報告、論説、研究ノート）、題目（和文、英文）、執筆者名（ローマ字を併記）、所属機関、専門分野を明記する。
- 5) 提出物：(1) プリント原稿3部（図版も含む。コピー可）(2) 原稿を入力したフロッピーディスク（データは、原則としてWindowsまたはMacintoshのテキストファイルとする）(3) 図版原稿（使用する場合）はデジタル化せず、写真等を提出。
- 6) 図版の扱い：モノクロを原則とする。カラー図版の場合、経費は投稿者の自己負担とする。編集・印刷の都合で、図版は各論の末尾部に配置する。本文中の挿入はできない。使用する図版の数は特に限定しないが、本誌4頁分以内に納められるものであること。
- 7) 校正：著者校正是1回。文字変換ミスの修正など最低限の訂正のみとする。
- 8) 抜刷等：執筆者には、抜刷30部と、掲載誌5部を無料進呈する。

●著作の紹介について

1月12日の運営委員会で、会員の著作データを「絵本学会ニュース」に掲載することが検討されました。

今後は、過去1年間のデータとして4月発行のニュースに掲載します。今回は、8月発行予定のニュースに掲載しますので、2001年1月1日から2002年3月末日までの著作データを電子メールにてご送付ください。電子メールをお使いでない方は、ファックスで事務局宛にお送りください。

e-mail:ehongaku@musabi.ac.jp

fax:042-342-5191

●理事会・運営委員会

1月12日 理事会 於：日本女子大学会議室

議題

1. 入退会の確認

2001年度入会者29名 退会者14名を確認の上承。
3年間会費未納者91名について、再度会費の督促と退会意志の確認を行う。

3月31日までに会費の納入がなかったときには、自動的に除籍とすることが確認された。

2001年12月31日現在の会員数

正会員：399名

準会員：23名

賛助会員：19団体

2. 理事会の在り方について

3. 今後の活動について

- ・研究の方向性、研究者を育っていく体制をどうつくっていくか。
- ・賛助会員を増やしていく必要がある
- ・データベースの構築
- ・社会的活動
- ・募金活動、企業からの基金
- ・若い作家志望の人たちをどう育てるか

4. 次回大会の概要について

大会概要について報告

1月12日 運営委員会 於：日本女子大学会議室

議題

1. 第5回大会について

2. 研究紀要について

3. 機関誌の進捗状況

4. 企画委員会から

5. その他

4月14日 運営委員会 於：日本女子大学会議室

議題

1. 第5回絵本学会大会について

2. 第5回絵本学会大会の運営と進行について

3. 機関誌の進捗状況

4. 1月12日理事会の報告と今後の活動について

5. 次年度大会会場について

6. その他

研究委員会から

企画委員会から

研究紀要について

●第5回絵本学会大会ご参加手続きのお知らせ●

- 来る6月29日(土)、30日(日)の2日間、神戸ファッショング美術館におきまして、第5回絵本学会大会が開催される運びとなりましたが、本年は会員の皆様のご参加の人数を前もって明確に把握しておく必要から、ご参加を希望される催しを事前にお知らせいただくとともに、参加費を前納していただくこととなりました。

つきましては、同封のはがきにご参加予定の催しなど必要事項をご記入の上、大会事務局までご返送ください。同時に、参加費を同封の郵便振替用紙(赤色)にて、指定口座をご送金ください。送金手数料は無料です。

2名以上のご参加の場合は、振替用紙の通信欄に人数・ご氏名を明記してください。

整理で
保管しています。

- 大会参加費は、1000円(2日間通し)、懇親会費は、5000円ですので、懇親会にご参加の方は、計6000円をご送金ください。

- 整理の都合上、大会の2週間前(6月15日)までに、手続きくださいますようお願い申し上げます。

●宿泊予約のお知らせ●

- 事務局では、会場の神戸ファッショング美術館に隣接する『ホテルプラザ神戸』を、メインの宿泊施設として確保しております。2月末日でいったん締め切りましたが、まだ若干の余裕がありますので、追加の宿泊予約を募ります。

- 宿泊費は、1泊朝食付でシングル11,000円程度(税・サ別)の予定です。

- 宿泊ご希望の方は、5月末日までに第5回大会事務局まで、下記の必要事項4項目をFAXまたはメールにてご通知ください。(締切厳守)

1. ご氏名
2. ご住所・電話・FAX番号・Mail-address
3. 宿泊希望日・日数
4. 人数・シングルorツイン

- お申込の方には、追って代理店より連絡が参ります。

◆第5回絵本学会大会事務局

FAX: 0727-77-5646

E-mail: hcd41801@hcc1.bai.ne.jp